



宮本新会長就任 第25回総会が開催されました



第25回総会が、7月24日に大阪市中央区のK K R ホテル大阪で開催されました。59会員社中2社が出席、2社の委任状を頂きました。

議案は平成19年度事業報告 同年度決算報告、同監査報告 20年度事業計画案 同年度予算案 役員改選 関連議案、その他報告、依頼事項で、全議案異議無く可決されました。役員改選では、村上恭豊会長（株）ハイポネックスジャパン）が退任され、宮本一光新会長（住友化学園芸株）が就任されるなど、異動がありました。

当協議会の今年度の事業計画は次の通りです。
講演会・年1回 総会終了後に開催する。
説明会・年1回肥料取締法改正等に関する

説明会を開催する

研修会・随時開催（基本的には説明会の開催日に合わせて併催）

調査研究会・各委員会の活動の活性化を図り、随時開催する。

懇親会・年2回 総会/講演会及び説明会/研修会の終了後に開催する。

普及啓蒙・啓蒙パンフレット、HPを活用し、会員及び一般への知識の啓蒙、情報の発信に取り組む。啓蒙パンフレットを消費者に積極的に配布する。当協議会の活動をまとめた広報誌「パピルス」を製作し、会員及び会員外に広く配布する。

資料配布・監督官公庁、関連団体からの資料等の配布と共に、HP上で補完的に配布する。

その他・関連団体等との協力やHP上での新会員の募集を継続。その他必要が生じた案件について随時取り組む。

総会後の講演会では、三菱商事株 汎用化学品本部 肥料ユニット輸入チーム 担当マネージャーの平井雄志氏においで頂き「海外の肥料原料の事情」とのテーマで講演頂きました。

メーカーとしてとても関心のある分野のため、約50の方が参加されました。

<< 新旧会長ごあいさつ



宮本一光 新会長

私ひとりで会を背負っていくわけではありません。副会長、理事の方々、並びに会員各社の皆様方のご協力を得て、大過なく務めていければと思っていますので、よろしくお願い致します。

村上恭豊 前会長

私は4年間会長職を務めました。
当協議会は、BSEの問題が発覚したときに機能を発揮したように、日頃は目立たなく

でも何か問題が起きたときに立ち上がっていくのが特色だと考えています。

今、肥料原料の高騰という嘗て経験したことのない問題に直面しています。

協議会として、今後どのように品質保全をしていくのかという大切な役割があるのではないかと考えています。

今度は理事という立場で会をサポートしていきたいと思います。

この4年間ご協力頂きありがとうございました。



来賓祝辞

安全性・品質をしっかりと守る

(独法)農林水産消費安全技術センター(FAMC)
神戸センター大阪事務所



浅木仁志所長

家庭園芸、ベランダ・バルコニーなどでの家庭園芸、環境に優しい屋上緑化などは、私だけでなく

日本人全員が興味のある分野だと思います。そういう分野で、肥料や用土は非常に重要な資材です。安全性・品質というものをしっかりと守っていただくため、この協議会の役割はますます重要になってくるのではないかと思います。我々、行政サイドとしても、二

人三脚で歩んで行けたらありがたいと思っています。最後にご存知の方もお見えになると思いますが、皆さんにもご支援ご協力を頂きました農林水産消費安全技術センター大阪事務所、旧肥飼料検査所は、平成2年度からFAMIC神戸センターに合体移転、40年近く続いてきた大手前の合同庁舎時代に幕を閉じることになりました。移転先は神戸のポートアイランドの新庁舎です。肥飼料共に今までやっている業務は変わらないので、移転後もよろしくお祈いします。最後になかなか世相も悪い時代ですが、我々は人の心に花を咲かせる仕事をしているということで、会員の皆さん方のますますご活躍とご発展を祈念して、簡単だがあいさつとしたいと思います。

新役員が就任

会長 = 宮本一光 (住友化学園芸株式会社)

副会長 = 宮入利和 (日清ガーデンメイト株式会社)
小塚純一 (株式会社花ごころ)

理事 = 大原詔雄 (旭化学工業株式会社)
小森強志 (株式会社JOYアグリズ)
刀川マリヤ (株式会社刀川平和農園)
柏原哲也 (東京総備株式会社)
大石敏也 (株式会社東商)
中島吉之 (中島商事株式会社)
村上恭豊 (株式会社ハイボネックスジャパン)
大下一明 (フマキラー株式会社)
滝口健一 (レインボー薬品株式会社)

監事 = 清水俊英 (株式会社サカタのタネ)
横内定勝 (タキイ種苗株式会社)
会社名5音順、敬称略

花育協議会に加盟しました

「全国花育活動推進協議会」

7月24日の第25回総会において、当協議会が「全国花育活動推進協議会」に加盟したことが報告されました。

全国花育活動推進協議会は、財団法人日本花普及センターが中心となって設立したもので、今年3月28日にその設立総会が東京で行われました。花や緑に関連する業界29団体が加盟(3月28日現在)し、会長には佐藤安弘財団法人日本花普及センター会長が就任された他、本協議会も理事になりました。

主な活動として、各地で行われる花育イベントで適切なアドバイスが出来る人材「花育アドバイザー」の登録制度などを推進していく予定です。これは参加団体の推薦に基づいて行われるものですので、今後とも皆様のご協力をお願いします。

今年3月に開催された「全国花育活動推進協議会」の設立総会



「花育」とは?

「食育」から着想を得た教育活動で、花や緑との触れ合いを通して、幼児や児童の情操教育や農業体験、地域活動や世代間の交流等の振興を図ろうというものです。



『海外の肥料原料の事情』

～肥料が高くなったわけ～

三菱商事株式会社 肥料ユニット 平井雄志氏

06年の世界の肥料需要（窒素、リン酸、カリの合計）を見ると1585万ト、これに対して日本は合計188万ト。日本は世界需要の1%ほどでしかない。これでは世界で起きていることに、日本はほとんど影響を与えない。逆にいえば、世界で肥料が高くなれば、日本でも高くなるを得ない。昨年春以降、肥料価格は急騰し、まだ高騰し続けている状態。

03年と比べた場合、現在の塩化カリ（MCP）の価格は4～5倍、リン酸二アンモニウム（DAP）は8～9倍に上がり、現在も上がり続けている。去年の春までは、なだらかに上昇していたが、そこから一気に値段が上がってきた。

需要面から、どうしてそれだけ肥料が消費されるか、3つに分けてみた。

人口の増加 = 世界人口は99年には53億人、07年には67億人、50年には9億人になると言われている。特にインド、中国辺りの人口増加率が大きく、それを支える食糧生産のための肥料需要の増加が1つの要素として上げられる。

食生活の変化 = 1人あたりのGDPの世界平均は、00年には5201ドルだったが、06年には7372ドルに上昇。BRICs（経済新興国のブラジル、ロシア、インド、中国）の1つ、中国の場合は00年の956ドルから、06年には2055ドルになっている。

中国の影響 - 日本の肥料中国依存度 -

- リン鉱石: 38%(他:ヨルダン、モロッコ、南ア等)
- DAPリン酸二アンモニウム: 13%(他:米国、ヨルダン、豪州、韓国等)
- MAPリン酸一アンモニウム: 10%(他:米国、モロッコ等)
- TSP/SSP重過リン酸石灰 過リン酸石灰: 47%(他:イスラエル、モロッコ等)
- 尿素: 40%(他:マレーシア、カタール等)
- NPK: 24%(他:ヨルダン、ノルウェー、韓国等)

中国は昨年未から主要肥料品目(上記)に対し、10%～35%の輸出税を賦課、4月に更に100%の特別課税を施行。これにより中国からの肥料輸出は激減。これが世界の需給バランスを乱し、供給はタイトになった。

豊かになり、より美味しいものを食べたくなり、肉食が増えた。一般に牛肉1kgを作るには穀物が11kg必要、ブタ肉では7kg、トリ肉では4kgの穀物が必要。このため家畜の餌となるトウモロコシや大豆などの穀物需要が増加している。

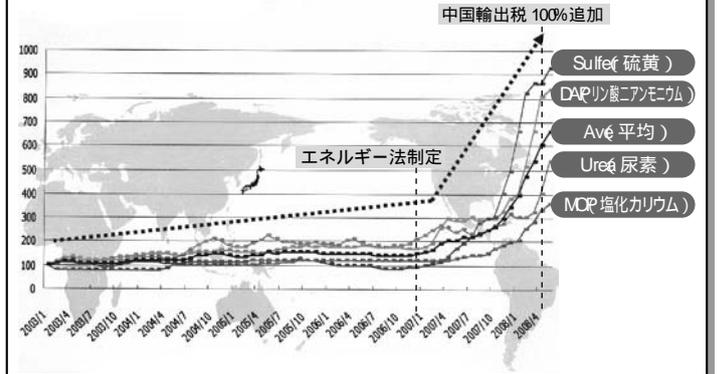
バイオ燃料による新しい需要 = 原油高騰や環境問題などから、穀物から作るバイオ燃料が世界的ブームになっている。アメリカならトウモロコシ、ブラジルなら大豆、ヨーロッパではナタネと、原料は違えど、農産物から燃料を作ろうという動きは、人の口に入らない「第2の需要」を生み出し、穀物生産が増加した。

07年末を境に世界の3大穀物の価格が、一気に急騰している。ターニングポイントとなったのは07年末、米国で「新エネルギー法」が制定されたこと。ガソリンに混ぜるバイオ由来燃料の含有量を決定し、20年には現行の5倍にしようという法律で、それにより需要が一気に増えて価格が上がった。

アメリカの全農家を1つの集合体として分析すると、穀物価格の上昇により収入は増えている。肥料コスト

肥料価格の上昇

人口増加 × 食生活変化 = 穀物需要増加
 = 穀物価格高騰 = 肥料需要増加 = **ファンダメンタル**
 バイオ燃料需要「第2の需要」による需要上乘せ
 = 穀物価格高騰に拍車 = **追加要因**



は確かに上がっているが、最終的な収入も上がっている。これは肥料が高くなっても、それを買って作ればもっと儲かるということを意味しており、アメリカでは農家の肥料購買意欲は旺盛だと言える。

今度は供給面を見てみたい。こちらも資源の偏在性、供給の寡占化、中国、の3点で見てみたい。カリ資源を有している国（生産国）のトップは旧ソ連、カナダ、この2国で世界の70%を生産。次いでドイツ、イスラエル、中国、ヨルダン。この上位6国で93%を生産している。03年は91%で07年には93%になった。もともと生産国が限られていて、しかもそのシェアは増加している。偏在している上、ますます寡占化が進んでいると言える。

リン鉱石でも、トップは中国、アメリカ、モロッコ、ロシア、チュニジア、ヨルダンの6国で、この合計が88%を占め、やはりこの6国が独占していると言える。03年では上位6国で79%、07年の段階で88%になり、カリより寡占化が急速に進んでいる。

中国は03年2500万トの生産が、07年には4500万トに倍増しているが、輸出量は350万トから100万トに激減。殆どが国内で消費されている。

日本は、リン鉱石で38%、DAP13%、MAP10%、TSP/SSP47%、尿素40%、NPK24%を中国から輸入しており、依存度は高い。その中国が国内に肥料が十分行き渡らないことから、中国政府は昨年未から主要肥料に対して10～35%の輸出税を賦課。今年4月、更に100%の特別税（9月末までの特別付加課税）をすべての商品に上乘せる政策をとった。これにより、中国からの輸出は激減してしまい、これが世界の需給バランスを大きく乱してしまった。

中国品を今まで買っていた人達が、慌てて他の国から買うようになり、特に日本は相当なパニックに陥った。

カリの場合、ロシア、カナダが世界の7割を占めるが、昨年、最大の生産国であるロシアの鉱山が水没してしまうという事件が起きて、ロシアからのカリが一時的にストップしてしまったのも世界的に衝撃を与えた。こうしたこと（事故）があるため、保険がつかず、新しい鉱山が開発されづらいのも、供給面での改革が遅れている原因の1つとなっている。

肥料 Q & A

Q 家庭園芸用肥料の登録、届出及び販売について教えてください



A 家庭園芸用肥料を生産、輸入または販売する場合は、農業用肥料と同様に肥料取締法に従って、肥料登録か届出、販売業務の届出、保証票の添付をしなければなりません。

肥料登録および届出

家庭園芸用肥料を生産または輸入する場合は、肥料登録か届出が必要です。登録になるか、届出になるかは肥料の種類によって決まります。

肥料の種類は、生産または輸入する肥料の原材料、生産工程および含有成分量により確定します。

▶ 登録が必要なもの

指定配合肥料以外の公定規格が定められている普通肥料については、銘柄ごとに、肥料の種類に応じ、農林水産大臣または都道府県知事の登録を受けなければなりません。

登録の申請は、肥料登録申請書及び肥料の見本を添えて、本社所在地の都道府県を業務区域とする独立行政法人農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の本部 または地方事務所を経由して、農林水産大臣に提出します。都道府県知事の登録を受ける場合は、生産事業場の所在地の都道府県に提出します。

▶ 届出が必要なもの

指定配合肥料については、銘柄ごとに、その原料などに

よって、農林水産大臣または都道府県知事へ届出をしなければなりません。

届出は、本社所在地の都道府県に所在する農林水産省農政局および農政事務所を経由して、農林水産大臣に提出します。都道府県知事への届出の場合は、生産事業場の所在地の都道府県に提出します。

販売業務の届出

家庭園芸用肥料を販売する場合は、肥料販売業務の届出が必要です。

生産業者、輸入業者、販売業者は販売業務を開始した後2週間以内に、氏名および住所 販売業務を行う事業所の所在地 保管する施設の所在地について、販売業務を行う事業所ごとに、その事業所のある都道府県知事への届出をしなければなりません。

保証票の添付

家庭園芸用肥料を生産、輸入または販売する場合は、自己の生産し、輸入しまたは販売する肥料に生産業者保証票、輸入業者保証票または販売業者保証票を付さなければなりません。
(事務局)

このコーナーでは、過去に会員の皆様から協議会へ寄せられた、肥料・用土に関する質問の中から、数が多かったもの、重要と思われるものを毎回ご紹介していきます。

会 員 紹 介

毎回、会員リスト掲載順に紹介していきます

自己紹介

家庭園芸における資材(用土・肥料・薬品など)を総合的に取り扱う園芸ベンダーとSUNBELLEXというブランドを持ち、用土・肥料の製造メーカーという、二本の柱を軸に事業展開を行っております。弊社のブランド名ですがSUN・太陽 BEL・鈴(創業者の苗字) EX・事業の可能性という造語になっております。太陽の光の下で可能性を持ち輝き続けられるそんな企業であり続けたいと考えています。

株式会社こうじゃ

〒311-1251

茨城県ひたちなか市山崎121

TEL029-264-2611 FAX029-264-2600

事務局より

お知らせ

- ▶ 独立行政法人農林水産消費安全技術センターでは、3月31日付けで山口勇氏が理事長を退任。4月1日付けで、吉羽雅昭氏が理事長に就任されました。
- ▶ 農林水産省生産局園芸課花き産業振興室では、7月1日付けで室長の志村勝也氏が転出、後任として経済産業省資源エネルギー庁から表尚志氏が新室長に着任されました。また同省生産局の組織再編により、8月1日付けで「園芸課 花き産業振興室」は、「生産流通振興課 花き産業振興室」となりました。

入退会報告

- 平成19年度入会 = 株式会社パルサーインターナショナル(東京都)、株式会社三浦グリーンビジネス(千葉県)
- 平成20年度入会 = 近畿農産資材株式会社(兵庫県)
- 平成19年度退会 = フジ園芸株式会社(岡山県)、カガライト工業株式会社(石川県)

家庭園芸肥料・用土協議会は、家庭園芸の安全で健全な振興のために、メーカー企業有志により昭和59年に設立されました。

家庭園芸肥料・用土協議会

〒650-0041 神戸市中央区新港町14-1 財団法人日本肥糧検定協会関西支部気付

TEL 078-332-6491 FAX 078-332-6545 URL <http://www.a-hiryu-youdo.com>